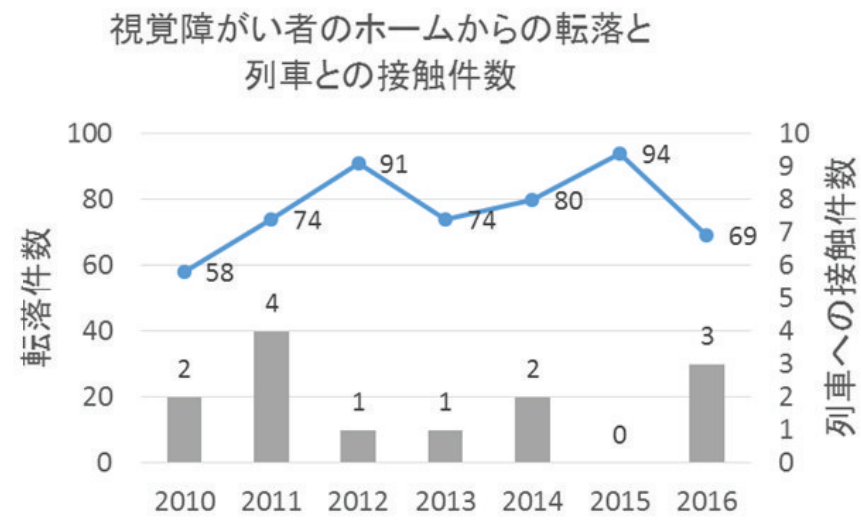


視覚障がい者の駅ホームからの 転落事例データベース

大倉元宏（理工学部）

視覚障がい者の駅ホームからの転落

- 2000年 交通バリアー法
- 2006年 バリアフリー新法
- 線路への転落発生(視障者540件, 2010~2016年度, 国交省)
- 科学研究費補助(2013~15)
- 転落事例DBの構築と公開
- 転落の実態の周知
- 晴眼乗客による見守りの促進
- 2016年6月 DBの公開



ホームドア



1日の乗降者数10万人以上
2020年までに800駅整備計画
全国約9500駅の1割にも満たない



マルチドア対応ホームドア

昇降ロープ式ホーム柵(大開口)

転落の防止に向けて

転落防止

転落原因の調査

OMのための手がかり
の整備

単独歩行技術の獲得

周り人々の適切なケア

共生社会
の構築

事例DBのURL

<https://omresearch.jp/fall/browse/>

公開事例数

- 16件(2018年3月22日現在)
- 関東, 中部, 近畿, 東北
- 全盲, ロービジョン, 盲導犬ユーザー
- 1974~2016

事例の収集と掲載

- 視覚リハ関係者からの情報提供
- 転落者に同行してもらい、実地検分
- ベテランの訓練士と学識経験者による事例カンファレンス
- 掲載決定

転落事例DBの概要

- 各種のブラウザーにより閲覧可能
- 3つの画面を介して情報を得る
 - 1) 検索条件画面
 - 2) 検索一覧画面
 - 3) 詳細画面

検索条件画面

- いわゆる「検索キー」を入力する画面
- 検索キーとして,「地区」「路線」「駅」「ホームの形状」「時間帯」「ホーム上での移動方向」「転落時の年齢」「性別」「転落時の等級程度」「歩行訓練状況」が用意
- テキストボックスやコンボボックスにより入力もしくは選択

検索一覧画面

- 検索条件に合致する転落事例の一覧が主要情報とともに表示される画面
- 主要情報とは「路線」「駅」「時間帯・天候」「ホームの形状」「転落までの移動状況」
- この画面の情報で事例の概略は把握できる

詳細画面

- 情報を「転落の経緯」「転落者の障がいの原因」「転落発生時における駅とプラットフォーム」「その時の転落者の状況」の4つに区分
- 「転落の経緯」には、日時、当該駅の利用頻度、普段と異なる事情あるいは突発的イベント、転落までの移動状況、転落原因と対策などを掲載
- 「その時の転落者の状況」には、転落時の保有視覚の程度などを掲載

スクリーンリーダーの利用

- JAWS
- PC-Talker
- NVDA

いくつかの転落事例の紹介

- 列車と思っていたら待合室であった
（信越本線直江津駅）
- 見えていても転落は起こります
（阪神本線梅田駅）
- ホームがそんなに狭いとは ..
（相鉄線二俣川駅）

転落の原因について

- 不注意による転落は一つもない
- 誘発要因はさまざま。最後は方向,あるいは列車到着の誤認。
- 誘発要因
 - 普段と異なる環境条件や状況の存在
 - OM特性(偏軌傾向,音源定位,エコー定位)
 - 聴覚/触覚の手がかりによる意思決定(思考過程は理に適っているが,手がかりの信頼性が低い)
 - 標示の誤解
 - 移動中の他のタスクの割り込み,あるいは同時遂行

今後の展開

- 転落原因の追究の重要性:

 - DB掲載事例数の増加

- DB閲覧端末の多様化:

 - スマホの利用

- 世界へ発信:

 - DBの英語版作成